

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学術)	氏名 Author	TRUONG MAI VAN
学位授与の要件	学位規則第 4 条第①・2 項該当		
論文題目 Title of Dissertation Reconnecting Children with Nature: Investigating the Importance of Parental Orientation toward Children's Nature Play and Its Affecting Factors			
論文審査担当者 Dissertation Committee Members			
主 査 Committee Chair	准教授 保坂 哲朗	印 Seal	
審査委員 Committee Member	教授 藤原 章正		
審査委員 Committee Member	准教授 鹿嶋 小緒里		
審査委員 Committee Member	教授 山田 俊弘 (統合生命科学研究科)		
審査委員 Committee Member	准教授 中林 雅 (統合生命科学研究科)		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>近年世界的な子どもの自然体験の減少が指摘されており、子どもの健全な発育への影響のみならず、身近な自然環境や生物多様性に対する関心の低下が懸念され、生態学や保全生物学の分野でも子どもの自然体験の回復は喫緊の課題の一つとなっている。本論文は、子どもの自然体験減少問題について、その要因解明と改善策の提言を目指すものである。特に、多くの既存研究が子どもそのものに焦点を当ててきたのに対し、近年子どもの行動に対する影響力が増大している親に着目している点に新規性が認められる。</p> <p>論文は全 5 章であり、第 1 章は現代社会における子どもの自然遊び (動植物や土、水などの自然物を使った屋外遊び) の減少傾向とその要因について既存文献のレビューを行い、本論文の目的について説明している。第 2 章は、親が子どもの自然遊びのメリットと障壁をどう認識しているか、また親の認識の個人差はどのような要因が影響するのかについて、日本全国 516 人の小学生の子どもを持つ親 (父親 258 人、母親 258 人) を対象としたアンケート調査を行った。その結果、親の大半は子どもの自然遊びの重要性を認識しているものの、安全性への懸念から、子どもだけの自然遊びをほとんど許可しないことが分かった。3 章では、同じサンプルを用いて、親の認識はどれほど子どもの自然遊び頻度に影響するのかを共分散構造モデルにより解析し、親の認識や子供だけの自然遊びを許可するか否かが、身近な緑地の有無や自由時間の大小よりも大きな影響力をもつことが分かった。4 章では子どもの自然遊びに関する親の懸念をより深く理解するために、22 人の親に対するインタビュー調査を行い、交通事故や変質者による危害に対する懸念の他、子どもが学校や公園のルールに違反する可能性や一人で遊んでいることを不審に思われる可能性など、「社会の目」を気にする側面もあることが分かった。このような社会的側面は、他国での既存研究では議論されておらず、日本社会の特徴を反映した新規な視点だと言える。第 5 章は総合討論であり、上記の議論を踏まえた改善策の提言について議論されている。</p> <p>以上、審査の結果、本審査委員会委員は、本論文が著者に博士 (学術) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			